

■ 11月12日、大学入試センターが「平成27年度からの大学入試センター試験における数学、理科の問題例（試作問題）」を公表した。

http://www.dnc.ac.jp/modules/center_exam/content0594.html
によれば、

- ・新たな内容・範囲からの出題のイメージをつかんでいただくために公表するものでありますので、問題例の正答は示しません。
- ・今後の大学入試センター試験における出題の形式や問題の構成等は、必ずしもこの問題例に限定されるものではありません。

問題例のレイアウトやフォント等では実際の試験問題冊子とは異なる場合があります。

- ・この問題例に対する御意見、御質問（正答についてのお問い合わせを含みます。）等については、今後の問題作成の参考とさせていただきますが、回答はいたしません。

とのことであるが、ざっと問題を見た感想を述べる。

■ 「データの分析」における四分位数は、予想通り（求めさせるのではなく）与えられている。このあたりは、四分位数の定義が複数あり、定義によって値が違ってくことに対応させたものかも知れない。

統計検定の2級、3級と同じ傾向である。

■ また、「データの分析」で、相関係数については、(3)の①～④の選択肢が目をつく。3つの問全体に対する正否がすべて合致しないと正解にならないという、酷な問題設定であり、受験生に気の毒である。

また、[A]～[C]も「教科書に書かれていない」と思われる内容である。ただ、[C]の「因果関係」という言葉の「定義」(?)が気になる。

■ 「整数問題」は、一定のボリュームのある問題を作成するのが大変な分野である。この試作問題を見ると、(1)、(2)の別内容のセットになっていて、こういう形式の出題がありそうだなと思わせる。

内容的には、特に目をつくものではない。

■ 数学 IIB の確率分布では、(2)で正規分布、推定まで含めた試作問題である。

これまで、確率分布では分散や相関係数に関する問題まで出題があったが、2項分布、正規分布、推定の内容は今回が初めての出題になるはずである。

「教科書にあるものはどんな内容でも出題される可能性がある」というのは、今年の「数学的帰納法」の出題からも想定できることだが、正規分布、信頼区間を設定した推定といった（教科書の終わりの）内容まで出題範囲だということである。

その意味では、この範囲の問題を選択解答するためには、隅々まできちんとした学習を求められることになる。

■ 大学入試センターがこのような試作問題を公表してくれるのをありがたく思うが、もう少し早い段階での公表が欲しかったように思う。数学 I や A は、すでに授業が終わっているのである。